

令和7年度第2回香川県立図書館協議会 議事録

日 時：令和8年3月10日（火） 13:30～15:00

場 所：香川県立図書館 研修室

出席者：河野委員、武田委員、坂東委員、前田委員、松本委員、真鍋委員、宮脇委員、山本委員

欠席者：黒川委員、柴田委員

傍聴者：なし

1. 開会

2. 館長挨拶

3. 議題

（1）令和8年度予算（案）及び事業計画（案）について

- ・事務局から説明
- ・質疑
- ・承認

（2）令和7年度運営状況について

- ・事務局から説明
- ・質疑
- ・承認

（3）令和7年度図書館評価について

- ・事務局から説明
- ・質疑
- ・承認

※ それぞれの議題に関する質疑については次のとおり

議題(1) 令和8年度予算(案)及び事業計画(案)について

委員：「子どもの読書体験活動支援事業」は来年度の新規事業だということだが、もう少し詳しい内容を教えてもらいたい。

事務局：こども図書館船「ほんのもり号」の運航に関連する事業だが、今年度は「ほんのもり号」が寄港する際、港に県立図書館や市町の図書館がブースを構えて、子どもたちが本に親しめるようなイベントを開催してきた。来年度は、こうした活動に加えて、学校間の交流の中に私たちも参加して、児童生徒と時間を共有し、本に親しんでもらうような活動ができないかと考えている。それに必要な物品を購入する経費や職員の旅費などを要求し、725,000 円の予算が認められた。

委員：年間の展示計画がしっかりと決められているが、時事的な問題について展示するコーナーはないのか。今、アメリカとイランの間で戦争が起きているけれど、例えばシーア派とは何なのか、イランの政治制度はどうなっているのか、或いは、宗教的に厳格な社会でありながら、その市民はもともとアメリカとの繋がりが強くリベラルな思想も入っている。その中で市民の政治への不満が高まっている。そういうイランに関する情報は、みんなが知りたいところだと思うが、そういう本を展示してはどうか。世の中がめまぐるしく動いていく中で、変化が起きたときに、年度の途中でも、時事的な問題について展示するコーナーがあればいいと思う。

事務局：資料3ページに記載している「イベント関連本展示」が、まさにイベントや時宜にあった本を展示するもので、楽しいテーマばかりでなく今を表せるようなテーマの本もタイムリーに紹介するよう努めている。

事務局：年間の展示計画には隙間もあるので、「次はこれを取り上げよう」という感じで、タイムリーなテーマで展示を行うこともある。

委員：イベント関連本展示コーナーは、常に設置しているのか。

事務局：閲覧室に入ると比較的一番目立つ場所に、このイベント関連本コーナーがある。

委員：そういうコーナーが常設され展示が実施されていると、活気があって、活動している感じがする。ぜひ充実させてほしい。

委員：子どもの読書体験活動支援事業について、高松市で事業を実施する際は、市の図書館職員も協力するので、ぜひ声をかけてもらいたい。

委員：昨年、東かがわ市にも「ほんのもり号」が寄港してくれた。朝早くから親子連れやいろんな人たちが乗船券を求めて長い列ができた。並んだけれど乗れなかったという人がたくさんいたくらい、とても盛り上がった。県立図書館と東かがわ図書館との連携もあって、普段の読み聞かせのときよりもはるかにたくさんの親子が参加してくれたので、今年も「ほんのもり号」が来てくれたらうれしい。

委員：先ほどから話題になっている「子どもの読書体験活動支援事業」は、予算案には記載があるが、事業計画案ではどこに記載されているのか。予算と活動がどういうふうに対応しているのか、よく分からない。

事務局：この事業については、今も内部でいろいろ検討している段階で、具体的にいつ、どこで何をするということを記載しづらかったので、資料の事業計画案には反映しておらず、口頭のみで説明した。

委員：事情は分かったが、事業計画の中で新しい事業はこれだとアピールして、事業を実施し、そ

れが評価された結果、また翌年も継続しようという流れになれば、分かりやすい。

委員：同感だ。今年はこれが目玉だというものがあればいいし、今年はここに力を入れるということ資料にも分かりやすく示してほしい。

委員：今どんどん物の値段が上がっているのに、予算額が例年と同じくらいだと、県民の皆さんに提供する本の冊数は減ることになる。特に予算が減っているときには、こういう事業をして、こういう成果があったということを示し、図書館の外側にいる人に対して分かりやすい情報提供に努める必要がある。

委員：小学校では、いろいろな子どもの多様な学習ニーズを保障していく必要があるが、この事業計画を見ると、図工の好きな子とか音楽の好きな子とか、理科に興味がある子とか、いろいろな子どもや保護者に対応した事業を計画していて、本当に素晴らしい。

また、図書館だけではなく、中学校や森林センターなどいろいろな機関や専門家と繋がって事業を展開しているところがとても良い。

「ほんのもり号」関連の事業で、学校間の交流を行うという説明があったが、学校の立場から言うと、児童を港まで連れて行くのは、交通手段や費用などの問題があり、なかなか難しい。乗船定員が十数人ということなので、例えば1学年100人規模の学校は参加が難しい。学校単位ではなく、家庭や地域に情報発信していくのも一つの方法ではないか。

委員：こども読書まつりの参加者の募集はどんな方法で周知しているのか。図書館内に掲示しているのか。毎年募集定員を満たしているのか。

事務局：県の電子申請システムを活用して募集しており、毎年定員に空きが出ることはまずない。

委員：学校にもチラシなどを配っているのか。

事務局：チラシは、館内で配布する以外に、各市町の図書館と近隣の幼稚園、小学校にも配っている。

委員：別の公共施設で聞いた話だが、以前は学校に依頼して児童生徒にチラシを配ってもらっていたが、最近、業務改善の一環かもしれないが、なかなか協力してもらえなくなり、集客に苦労しているらしい。図書館に関心を持っている人は、自ら情報を求めるので、イベントの情報も手に入れやすいけれど、図書館への関心が薄い人たちへの広報手段を工夫する必要がある。

事務局：これまで、近くの小学校には児童数分のチラシを持ち込んでいたが、近頃はイベントのチラシを電子データで渡すと、家庭に一斉送信してくれる学校もある。

委員：広報の取扱いが市町によって異なり、私の学校ではチラシやポスターは市教育委員会が実施するイベントとか、教育委員会が承認したものに限り配布してよいことになっている。最近ミッターメールやリーバーなど保護者と繋がる連絡網アプリがいろいろあるけれど、学校長の判断で何でも配れるわけではない。

委員：先ほど県の電子申請システムで参加者を募集するという話があった。県立ミュージアムのイベントもそのシステムで申し込んでほしいと言われるのだが、システムを利用する応募者は多いのか。

事務局：一定数は応募がある。子ども向けのイベントの中には、電子申請システムのみで申し込むことにしている行事もある。

議題(2) 令和7年度運営状況について

委員：今年初めて実施したナイトライブラリーはとても楽しそうだ。子どもが普段できない体験ができるのは良いことだと思うので、好評だったのであれば継続してほしい。

照明のLED化は最近多くの施設で実施しているが、この会場も以前よりとても明るくなったので、羨ましいと思った。

事務局：この部屋も交換前は、蛍光灯がちらついて、視力への影響が懸念されるほどだった。

委員：資料10ページの「事業実施状況」を見ると、小学生以下の子ども向けの企画にはたくさんの参加者が来ているが、中高生向けのイベントには参加人数が少ないものもある。13ページには「中高生の読書支援」として、様々な行事や展示を実施したことが記載されているが、これらに対する反応はどうだったのかを聞きたい。

事務局：中高生の読書離れに対応するため、担当者が創意工夫してアイデアを出している。中学生にお勧めの本や絵本のポップを書いてもらって展示すると、たくさん見に来てもらえるが、その人数に比例して中高生の貸出冊数が伸びているという実感はない。少しでも来てくれればという気持ちで、いろいろな企画を試している。

事務局：定期試験前には勉強目的の中高生が大勢来館する。何とかそうした生徒たちを本の利用に繋がられないか、と苦心している。

委員：定期試験のときは、試験勉強で頭が一杯だろうが、いろいろな本があることを知って、何パーセントでもいいから、改めて来館してくれる生徒がいればよい。

委員：私の娘の学校では、朝の読書の時間というものがあるが、自分の好きな本を15分間くらい読んでいた。友達が読んでいた本が面白そうだから、貸してもらったり、図書館や本屋に行って探したりしたことがあった。小学生のときは漫画や絵本を読んでいたけれど、中学生になって興味が広がり、読解力がついて成績も上がった。本をたくさん読むきっかけになり、ありがたかった。

委員：ヤングジェネレーションコーナーなどの展示には、自然科学関係のテーマとか、子どもの実生活に直結するようなテーマが多い気がする。先ほどの戦争の話のような社会的な内容をもう少し取り上げてはどうか。展示の内容について委員が発言していいのかわからないけれど、今の中高生はSNSやインターネットで情報を収集することには長けていて、特に戦争の問題もそうだが、自分に心地いい偏った情報ばかり入ってくるようになってきている。しかし、ネット上にはないこと、学校の授業では扱えないことを知りたいという中高生の気持ちにきちんと答えることが、図書館の役割として、とても大切だと思う。意外に硬派なものも読んでもらえるのではないかな。

委員：同感だ。資料12ページの「イベント関連本展示」の内容を見ると、私自身が面白いと思えるものが見当たらない。図書館には人の知的好奇心を喚起する役割もある。その意味で、このコーナーはとても大事だと思う。県立の図書館が政治的な問題を取り上げることは難しいし、どういうテーマに取り組むことができるのか分からないけれど、ぜひ頑張ってもらいたい。

委員：普遍的な問題を扱うことは大切だし、あまり時代に媚びなくてもいいのではないかなと思う。

委員：今の時代は、ありとあらゆるところで、個別的というか、シンギュラーなものがすごく持ち上げられて、普遍的なものが軽視されている。そういう意味では、偏ったものではなく、普遍的

な価値をもっとアピールすることが大切だと思う。

事務局：「イベント関連本展示」のうち、「本で振り返る 2025」では、新旧二人の総理大臣の本など、少し社会的なテーマの本も紹介した。2023 年にはウクライナの戦争に関する本を展示したこともある。今後、ご指摘の点も意識して取り組んでいきたい。

委員：「本で振り返る 2025」という題名も、もう少しインパクトのあるものにしてはどうか。

議題(3) 図書館評価について

委員：資料 28 ページの「当館のサービス満足度」に関するアンケートの結果が、23 ページの図書館評価の指標⑬に反映されていて、満足度は 89%で目標の 90%を達成できず B 評価となっている。しかし、「やや不満」「不満」と回答した人の多くは、所蔵資料について不満に思っている。職員の対応が悪いなら、すぐに改善できるが、所蔵資料に対する不満は簡単に解消することはできない。流行書を増やしてと言う人もいれば、専門書を買ってほしいという意見もある。しかし、県立図書館が流行の本ばかり追えないし、一人ひとりの専門分野に応じた本を揃えるのもなかなか難しい。

目標を掲げて評価するからには、改善するためにこういう手段をとるということを示して、翌年度に、その改善策がどれだけうまく機能したかを評価するということになる。しかし、所蔵資料の場合、すべての利用者の希望に応えることはできないから、評価をあまり気にしなくてもいいと思う。不満に思う人が 1 人でもいると困る事項もあるが、そうじゃないこともある。そのあたりを緩やかに考えて、評価指標の設定や評価の方法などを工夫するというのも一つの考え方である。貸出冊数を増やすという目標も、外側の条件に左右され、図書館側の努力だけではどうにもならないので、目標を立てること自体にどれだけ意味があるのか疑問である。

事務局：評価の手法として、数値目標を掲げて、それに対する達成率を把握することにしているが、私たちとしては、やみくもにオール A 評価を目指しているわけではない。利用者がこの図書館のことをどう思っているのか把握するため、アンケート調査を行っているし、毎年の結果の比較もしてみたい。しかし、数値が 1 ポイントでも下がればだめで、1 ポイント上げるために何かしないといけないという意識でやっているわけではない。達成率で線を引けば A とか B とかの評価は必ず出てくるが、それに一喜一憂するものではないと考えている。

委員：来館者満足度に関して、所蔵資料に関する不満の取扱いを工夫する必要があるというご指摘はあったものの、こうして数値目標を設定し評価することはよいと思う。しかし、評価指標の中で、数字で把握できるものと、数字では掴みにくい事項がある。図書館の全ての営みが数字だけで把握できるわけではない。そういう数値以外の部分をどのように把握するのが課題である。現行の方式でしっかり評価すると、やはり全て A を目指しているように見えるし、あまり図書館の良いところが表れないと感じる。

事務局：図書館のうわべではない本質的な価値を測る物差しがないだろうかと自問自答しているところである。一般的に図書館を説明する際には、入館者数が年間何人くらいとか、貸出冊数が何冊で、蔵書数はこれくらいの規模の図書館だというように基本データを使うが、それ以外の物差しがまだ見つからない。アンケートの「サービス満足度」は、我々の活動を利用者が評価してい

るという点で一つの尺度ではある。

委員: 評価には二つあって、一つは自分たちのためにする評価で、もう一つは外向けの評価である。外向けの評価はこのように数値で示すと非常に分かりやすい。しかし、抽象的な言い方だが、良い図書館になるためには、数値化できない部分がとても大事だと思う。例えば、アンケートの自由記述は貴重な示唆をもたらすのではないか。なかには極端に厳しい意見もあるだろうが、全体の数値と照らし合わせてみれば、偏った意見なのかどうか分かるし、そういう分析はAIを活用すれば、ある程度傾向が見えると思う。自由記述には不満を山ほど書く人があるかもしれないが、全体的にはこういう点は満足度が高い一方で、この点は改善の余地があるということが把握できるだろう。来年度からということではないが、検討してみてもいい。

このアンケートの回答率はとても高い。894 枚配って 713 人が回答してくれている。熱心な人たちだと思う。こういう調査では回答がほとんど返ってこないものもあり、回答率が 3, 4 割あればすごくいいほうだ。そういう意味では、応援団が多い施設だと言えるので、ぜひとも、評価の中に利用者の意見をもっと取り込んでいければよい。

委員: アンケートの「サービス満足度について」という設問は、少し漠然としている。例えば、ソフト面とハード面に分けたうえで、自由記述を少し整理していくと、成果と課題、つまり、今皆さんが頑張っていてよくできているところと、利用者が求めているところが見えてくるだろう。

委員: 今までの意見を踏まえると、基本的には提示された指標でよいが、来館者満足度については、ソフト面とハード面に分けて尋ねるなど、アンケートの作り方などに工夫の余地があるということだったので、事務局で検討し、必要に応じて私たちにも相談してもらえればよい。

(4) その他

委員: アンケート調査の「図書館へのご意見等」に、夏場の室温が少し高く感じると書かれていたが、設定温度には県が定める基準があるのか。最近は温暖化でどんどん暑くなってきているのに、その基準は変わらないのか。

事務局: 設定温度には決まりがあって、この施設にはビル管理会社の担当者がいて、時間ごとに各部屋の温度を測定している。しかし、広い施設なので、冷房がよく効く席もあれば、冷房が届かない場所もあり、どうしてもばらつきが生じる。体感温度にも個人差がある。また、機械も古くなっていて、補正予算のところで説明したが、今年度もチューブ洗浄をするなどメンテナンスをしながら、細やかな運転に努めているところである。

委員: 今回初めてアンケートを見せてもらったが、このように結果を取りまとめるのは本当に大変だと思う。

市の認知症フェアの際に、社会福祉協議会からの依頼により、親子が参加する読み聞かせの会で認知症の高齢者を描いた絵本を取り上げたことがあった。小さい子どもは、内容が十分理解できなかったと思うけれども、お母さんの膝の上で、或いはお父さんの横で聞いてくれた。社協の方には、そういう情報を若い方に少しでも知ってもらいたいという意図があった。先ほど、普遍的な価値という話もあったが、図書館での展示のテーマとして、認知症のことなども取り上げればよいなと思った。

委 員：駐車場について、土曜日や日曜日には、図書館の敷地に入って来ても、正面の駐車場が満車だと、また道路を挟んだ駐車場に移動しなければならない。赤ちゃんを連れた方などは、グルグル回って車を止めたり、ベビーカーを押して正面玄関まで来たりするのは、とても不便だと思う。私たちも雨の日には、できるだけ近い所に停めたいが、せめて満車であることを知らせる表示板などがあればよいと思う。

委 員：エントランスロビーはかなり広いが、イベントなどで利用していないのか。最近、美術館などのエントランスでコンサートを開いて、好評を得ているようだ。美術館は音が漏れても大丈夫だが、図書館は本を読む施設なので難しいだろうか。

事務局：音が出るイベントは難しい。コンサート等を開催する際は視聴覚ホールを使っている。エントランスホールはLED照明にして明るくなったので、静かにコーヒーを飲みながら本を読んでいる利用者もいる。